

八甲田山の火山活動解説資料（平成 28 年 11 月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図 1、図 2）

23 日から 24 日にかけて、八甲田山山頂（大岳）の西約 5 km 付近の深さ約 3 ～ 5 km で火山性地震が一時増加しました。マグニチュード¹⁾は最大で 1.7 でした。

そのほかの期間は、火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 3、図 5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) マグニチュード (M) は地震の規模を示します。資料中の値は暫定値で、後日変更することがあります

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>) や、気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成28年12月分）は平成29年1月12日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 20mメッシュ (標高)」を使用しています (承認番号 平26情使、第578号)。

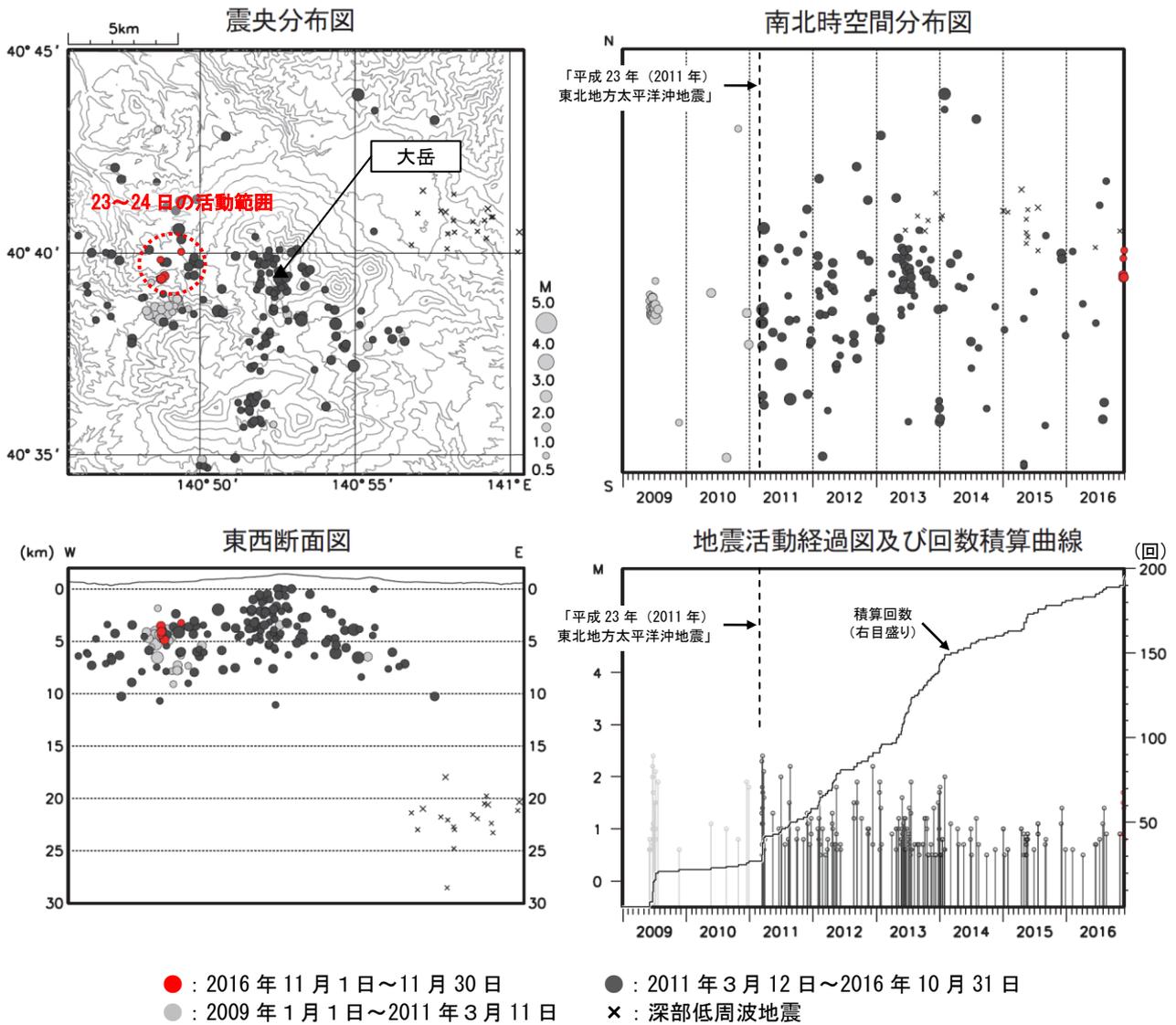


図 1 八甲田山 広域地震観測網による八甲田山周辺の地震活動図 (2009 年 1 月～2016 年 11 月)

- ・ 23 日から 24 日にかけて、八甲田山山頂 (大岳) の西約 5 km 付近 (赤破線領域) の深さ約 3 ~ 5 km で火山性地震が一時増加しました。
- ・ 2013 年 2 月 14 日～5 月 24 日及び 2014 年 12 月 26 日～2015 年 1 月 5 日、2015 年 3 月 14 日～3 月 31 日の期間は、沖揚平観測点 (青森県) が障害のため検知能力が低下しています。
- ・ M (マグニチュード) は地震の規模を示します。
- ・ 図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。

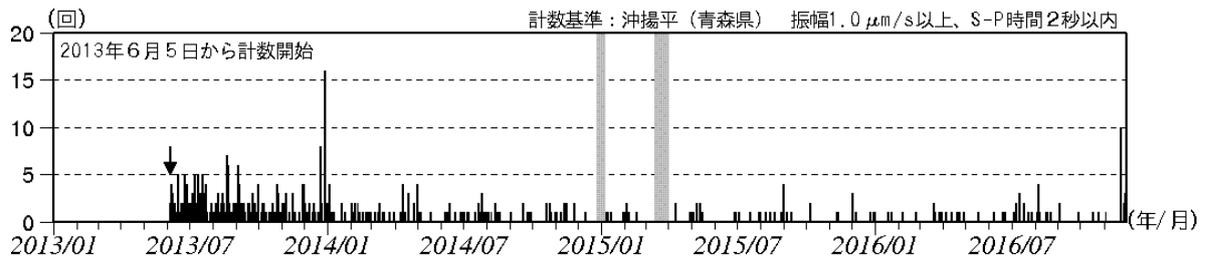


図2 八甲田山 日別地震回数 (2013年6月~2016年11月)

・灰色部分は欠測を表しています。

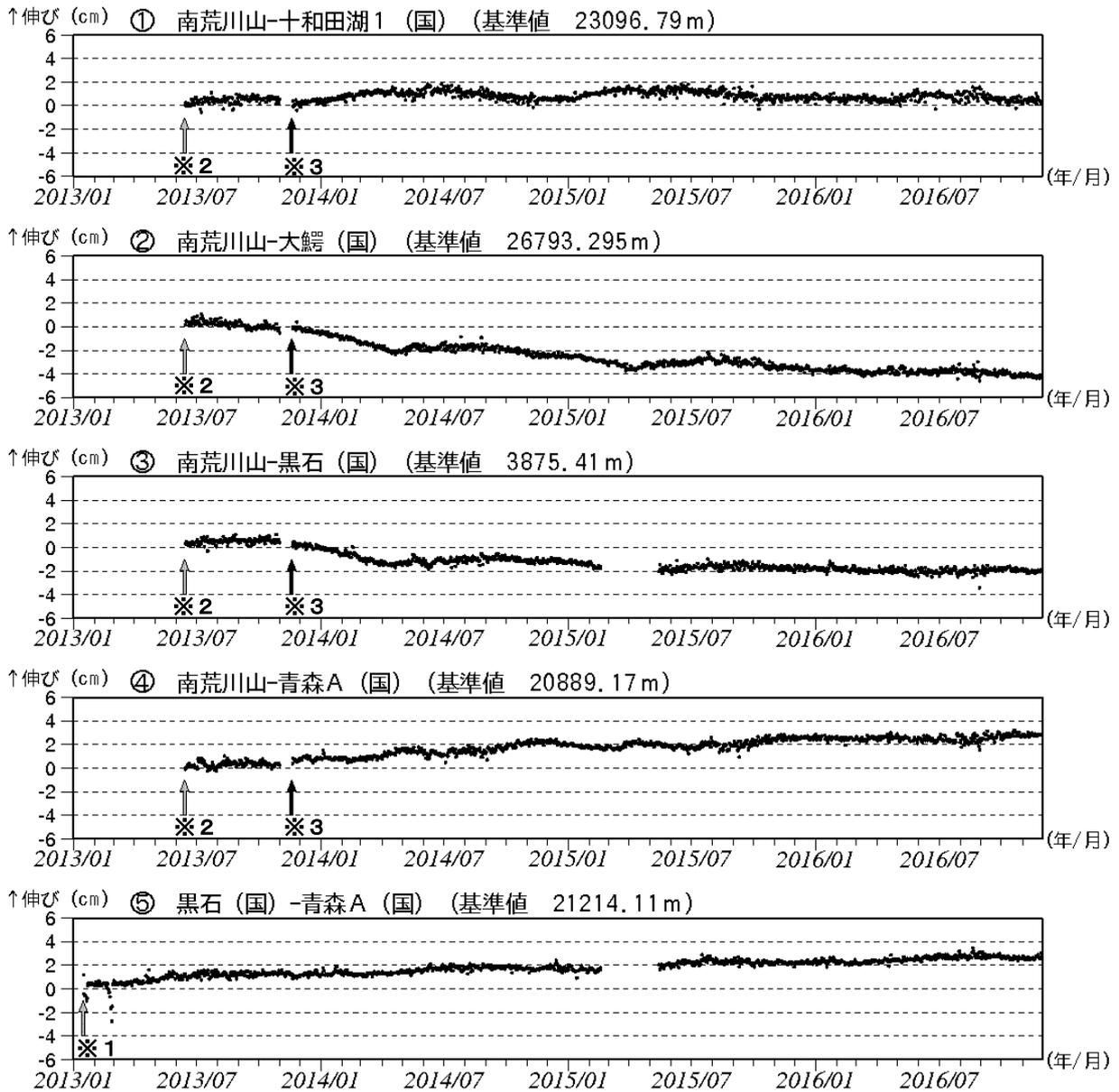


図3-1 八甲田山 GNSS²⁾ 基線長変化図 (2013年1月~2016年11月)

2) GNSS とは Global Navigation Satellite Systems の略称で、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示します。

- ・空白部分は欠測を示します。
- ・①~⑤は図5のGNSS基線①~⑤に対応しています。
- ・各GNSS基線の各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。

※1 2013年1月16日より解析を開始しています。

※2、3 南荒川山(臨時観測点)のデータは、2013年6月15日から11月1日まで現地収録していましたが、機器の移設・更新を行い11月19日からは常時テレメータ観測しています。図は基準値を補正して接続しています。

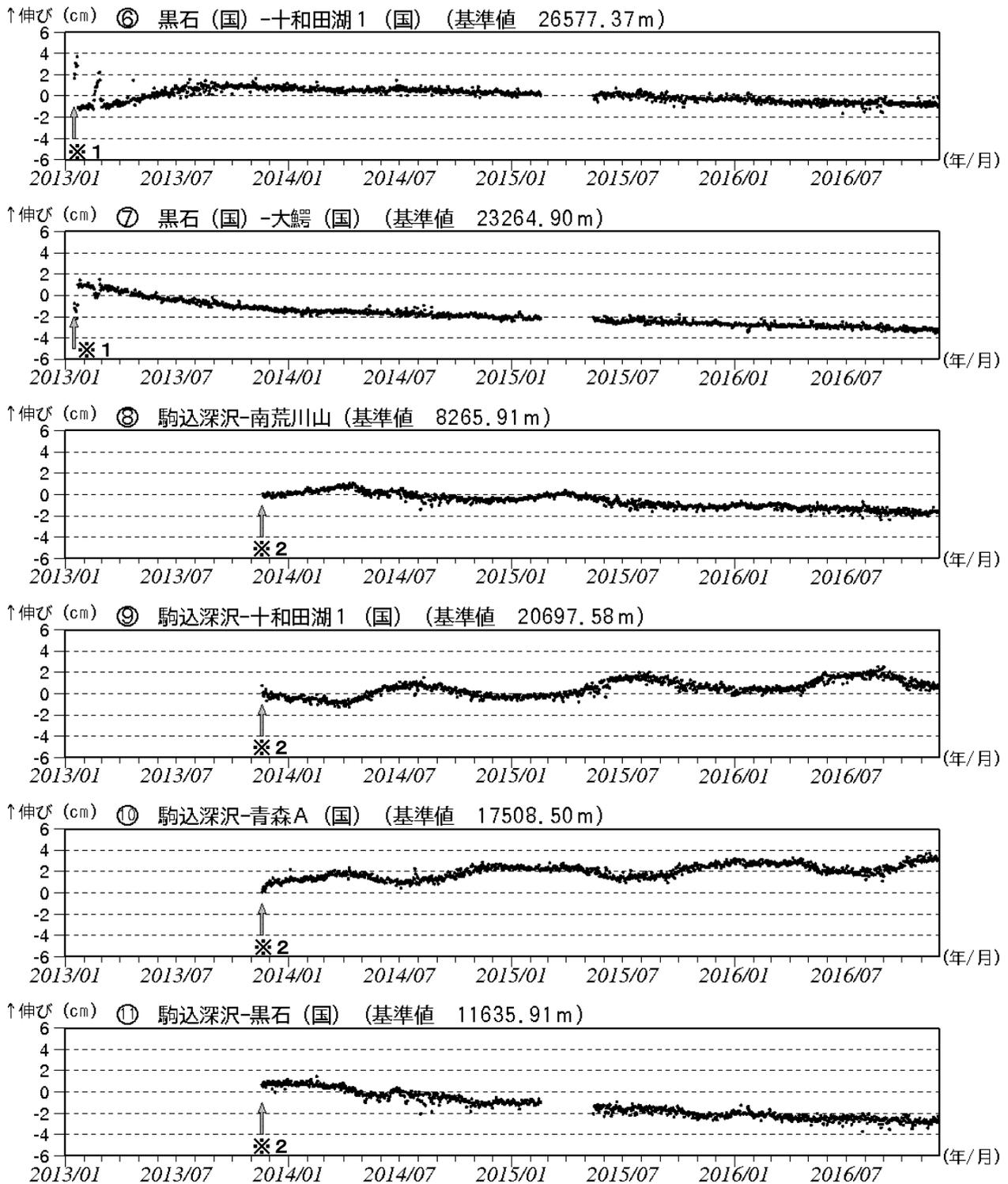


図3-2 八甲田山 GNSS 基線長変化図 (2013 年 1 月～2016 年 11 月)

- ・⑥～⑪は図5のGNSS基線⑥～⑪に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。

※1 2013年1月16日より解析を開始しています。

※2 駒込深沢観測点は2013年11月18日から解析を開始しました。

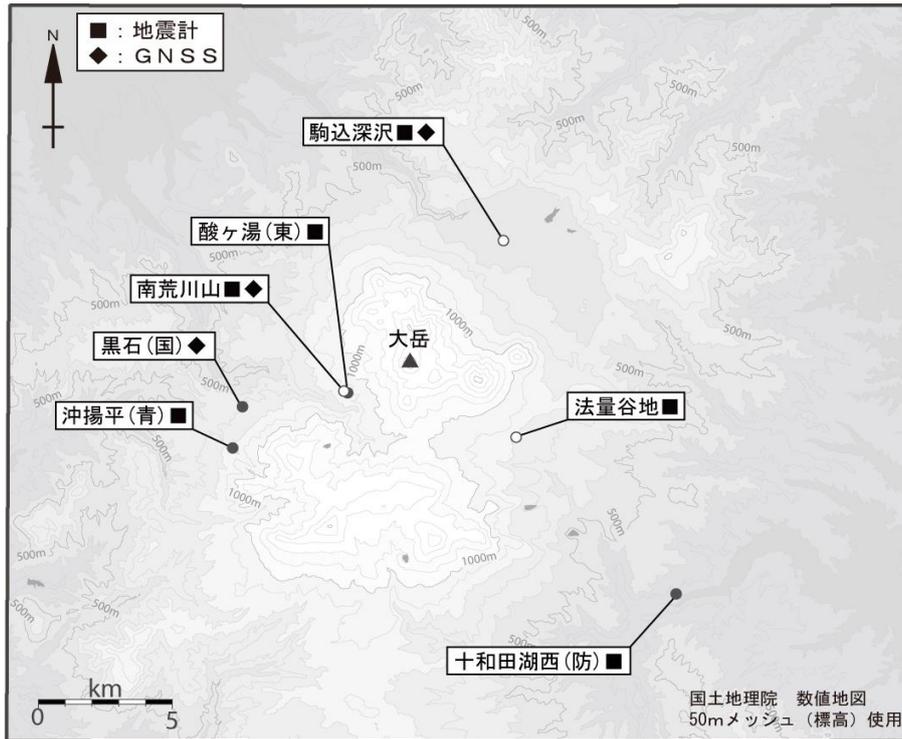


図4 八甲田山 観測点配置図

- ・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （東）：東北大学 （国）：国土地理院 （青）：青森県
 （防）：防災科学技術研究所

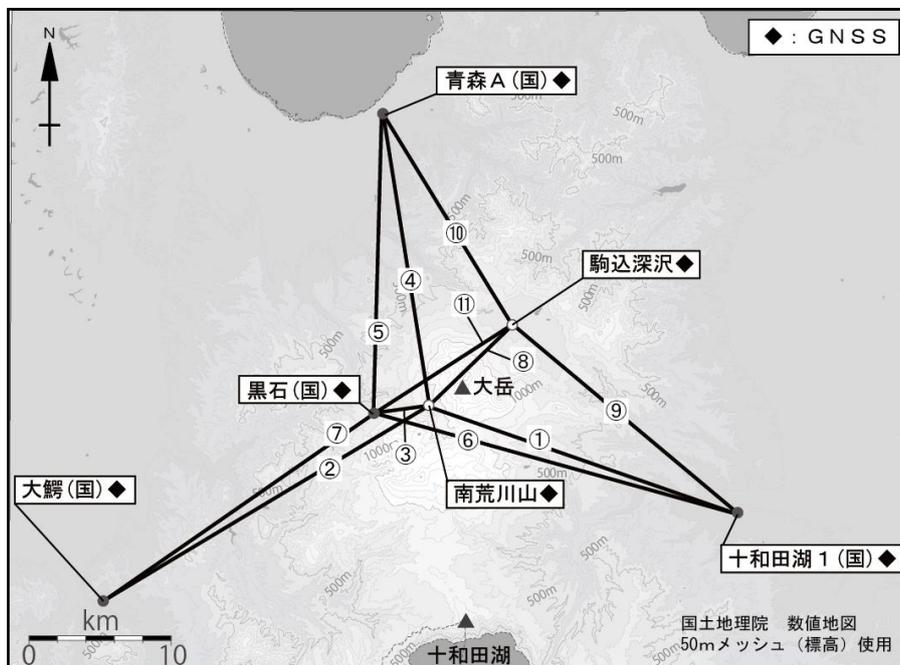


図5 八甲田山 GNSS 観測点配置図

- ・小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院